

お盆に出荷可能で作りやすいモモ品種

本県では、果樹による所得拡大をめざし、新たな樹種としてモモおよびスモモ栽培の普及拡大に努めています。モモ・スモモは県内での栽培事例が少なく、今後の栽培拡大に対応した品種選びが必要です。先に報告した1品種に加え、お盆に出荷可能なモモ品種を選定したので紹介します。

1 おすすめ品種の概要



品種比較では、いずれの樹も 4.0m×2.75m(列間×樹間)の計画密植で露地・地植えとし、南北方向の2本主枝で仕立て、主要産地の事例を参考に栽培管理を行いました。病虫害被害軽減のため、はっ水加工された白色の果実袋を用いて袋かけ栽培としました。

本県の環境条件下において、樹体生育が良好で、植栽から比較的短期間で結実が増加し、品質良好なモモ品種として、先に黄色果肉の「つきあかり」を選んだのに加え、白色果肉の「なつおとめ」を追加で選定しました。

「なつおとめ」は、樹冠の拡大が順調で、植栽から比較的短期間で結実が増加します。お盆までに収穫でき、モモ需要の最盛期に販売可能です。高い糖度に加えて、適度な酸味があり、良好な食味です。

表 おすすめ品種の主な特性

(平成29年産=5年生データ)

樹種・品種名(育成者)		果実品質		特性
モモ 「なつおとめ」 (農研機構)		収穫期	8月上旬	<ul style="list-style-type: none"> ・授粉作業は不要 ・収量は多め ・全面が赤く着色する
		1樹収量	10.4kg	
		果重	253g	
		糖度	14.6%	
		果肉色	白	
モモ 「つきあかり」 (農研機構)		収穫期	7月下旬	<ul style="list-style-type: none"> ・授粉作業は不要 ・収量は多め ・陽光面が赤く着色する
		1樹収量	13.8kg	
		果重	222g	
		糖度	13.0%	
		果肉色	黄色	

※写真に添えたスケール(目安)は1目盛2cm

2 栽培上の留意点

- 重要病害であるせん孔細菌病を防ぐため、風当たりの弱い圃場を選定する。
- 風による被害を受ける圃場では、防風垣や防風ネットなどの防風対策を講じる。
- せん孔細菌病の越冬菌密度を低下させるために、9月上旬に抗生物質薬剤を散布するのについて、同月の中旬および下旬の2回ボルドー剤を散布する。
- せん孔細菌病予防と果皮の荒れを防ぐため、摘果直後に袋かけをする。
- 摘果作業を短期間で省力的に進めるために、開花前の摘蕾を必ず実施する。

(農試 園芸研究センター ウメ・果樹研究G)